

一般向け

子ども向け

PICKUP_04 「被災したあなたを助ける お金とくらしの話」



岡本 正／著
地震、津波、台風、豪雨、土砂崩れなど、だれもが災害に遭う可能性がある日本列島。災害に遭っても、前を向いて一歩を踏み出すための希望を伝える一冊。

PICKUP_05 「カメの甲羅はあばら骨」



川崎 悟司／著
カメの甲羅、ゾウの鼻、キリンの首など23種の動物の特徴ある体の一部を人体で表現。動物の体のつくりや進化について学べる動物図鑑です。

PICKUP_06 「木になった亜沙」



今村 夏子／著
誰にも料理を食べてもらえない亜沙は、木になりたいと願いがから人生を終える。生まれ変わった亜沙と若者の話など奇妙で純粋な3つの愛の物語を収録。

PICKUP_01 見つけてのぼそう！ 「自分の「強み」」



足立 啓美、吾郷 智子／著
ポジティブ心理学の世界的に権威がある研究に基づいた24の性格的な「強み」の中から、自分の持っている「強み」を発見して、生かす方法が学べます。

PICKUP_02 めんどくさがりなきみのための 「文章教室」



はやみね かおる／著
小説を読むだけで、文章力が上達。中学2年生の男の子を主人公に、何を書いてもいいか分からない場合の解決法や、うまい文章の書き方などを教えます。

PICKUP_03 「すきまっちゃん」



竹与井 かの／作・絵
家のすきまに落ちて生まれた、すきまっちゃんたち。ある日、仲間のこんべいとっこがアリにさらわれてしまいます。すきまっちゃんの仲間を探る冒険のお話。

続々新刊が入荷。詳しくは市公式ホームページで

●Library Topics

みんなの図書館

利用者の声や図書館のイベントなどをお知らせします

中田図書室で雑誌の貸出開始

迫図書館と登米図書館で実施していた雑誌の貸出しサービスを4月から中田図書室でも開始しました。

雑誌のバックナンバーは貸し出しできます。雑誌も貸出冊数に含まれ、貸出期間も貸出日の翌日から14日間です。自動貸出機の利用も可能ですのでご利用ください。

中田図書室で取り扱う雑誌

サンキュ！、MOE、サライ、アニメディア、クロワッサン、ひよこクラブ、きょうの料理、S-style、暮らしの手帖、Hanako、日経ヘルス、やさしい畑、コットンタイム、文藝、園芸ガイド、一個人、レタスクラブ、Mart、家の光

一放送大学の講義を中田図書室で受講一

放送大学登米視聴学習室が4月2日、中田図書室内にオープンしました。学習室のDVDなどの教材は、放送大学の学生をはじめ、市民の皆さんも視聴できます。

詳しくは、中田図書室のホームページをご覧ください。

- 開館時間 午前9時～午後5時
- 休館日 毎週月曜、祝日、年末年始など（中田図書室は祝日も開室）
※その他、館内整理など不定期での休館もありますので問い合わせください
- 問い合わせ 迫図書館 ☎0220(22)9820
登米図書館 ☎0220(52)5330
中田図書室 ☎0220(34)8081

北海道北見市で生まれ、札幌盛岡などで青春時代を過ごした恵美さん。仙台で就職後、タイプライターを学び仕事のため中国へ。帰国後、24歳で達郎さんと結婚し満州で新婚生活を送りました。現在は高齢者向け住宅



尾形 恵美さん
(迫町・中江)

大正9年4月24日生まれ

19歳で結婚したなみこさんは、裁縫が得意で親戚中から着物の仕立てを頼まれるほどでした。38歳で夫を亡くしてからは、夏は農業、冬は縄跳びなど、子どもたちから「いつ寝て起きているのか分からなかった」と



伊藤 なみこさん
(迫町・茂栗)

大正9年5月27日生まれ

いっまでも お元気で
おめでとーございます
祝100歳

米山町米岡出身の正夫さんは、20歳で無線通信員として軍隊に入隊。復員後結婚し、3人の子どもを授かりました。3年前に脳梗塞を発症しましたが、持ち前の我慢強い性格で、リハビリに励み、杖なしで歩ける



西條 正夫さん
(登米町・鉄山)

大正9年5月24日生まれ

ハンセン病への偏見や差別のない社会を目指して

■根強く残る偏見や差別

平成8年に「らい予防法の廃止に関する法律」が施行され、明治時代から1世紀近く続いた隔離政策はようやく終わりを告げました。

しかし、ハンセン病療養所に入所していた人の中には、完治したにもかかわらず、今でも療養所にとどまる人が少なくありません。高齢で身寄りがないことや、長期間にわたり社会との交流を絶たれてきたこと、ハンセン病に対する偏見や差別が今なお根強く残っていることから、社会復帰が難しい状況になっています。

■偏見や差別をなくすために

国は、ハンセン病の患者・元患者の社会復帰を支援していますが、住みよい社会にしていけるためには、ハンセン病に対する偏見や差別をなくしていくことが必要です。

ハンセン病について一人一人が正しい知識を持

ち、ハンセン病の患者・元患者、家族が受けてきた過去の歴史を考えながら、相手の人権を尊重する気持ちを持つことが大切です。

近年、学校の子どもたちが療養所の見学に訪れ、入所者の話を聞いたり、療養所で地域の人たちとの交流会が開かれたりするなど、ハンセン病に対する知識と理解を深めるための活動も広がってきています。

【よくある誤解・思い込み】

感染力が強い。遺伝病である。不治の病である。

【正しい知識】

感染力が弱く遺伝することはありません。日常生活で感染する可能性はほとんどなく、感染しても発病することはまれです。早期発見と適切な治療により完治します。

【問い合わせ】市民生活部健康推進課(保健推進係)

☎0220(58)2116